

知事広聴：平太さんと語ろう

発言要旨

日時：平成 22 年 3 月 18 日（木）11:00～12:40

会場：くれいどる芝楽 芝川町文化ホール

1 出席者（男性3名、女性2名 計5名 敬称略）

芝川町において様々な分野で活躍中の方

2 発言意見

No	項 目	関係部局
1	内房たけのこの生産	産業部 林業振興室
2	ひらたけの栽培と日頃の活動	産業部 林業振興室
3	関取米の給食での提供	教育委員会 学校教育課 産業部 こめ室
4	西山本門寺の本堂の耐震化 火縄銃の使用許可に関する申請書類の簡略化	教育委員会 文化課 警察本部
5	自然と人の平和的なつながりの創造	産業部 林業振興室
①	都市計画法上の市街化調整区域の指定に緩衝期間を与えて欲しい 東名、国道1号線の迂回路の整備 間伐材の漁礁としての利用	建設部 都市計画室 建設部 道路整備室 産業部 水産資源室 産業部 林業振興室 建設部 森林整備室

3 意見交換内容

出席者発言要旨	知事発言要旨
<p>1 内房たけのこの生産</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 内房のたけのこは、1861年頃に、防災と農産のために伊豆より親竹を移植したのが始まりである。内房の地質に合い、良質のたけのこがつくられ、幕府にも献上された。 ・ たけのこは、特に色と形がよく、灰汁が少ないため商品価値もあり、農協を通して市場に出荷されている。主な出荷先は東京の大田市場、川崎の中央市場や、県内では富士中央、沼津中央市場である。 ・ うちの近所にいる方が東京へ行き、立ち寄った食堂でたけのこの料理が出て、「このたけのこはどこのたけのこか。」と尋ねると、「おいしいでしょう。このたけのこは静岡の内房というところのたけのこで、とてもおいしいんだよ。」と言われて、とてもうれしかったという話を聞き、私も大変感激した。 ・ 最盛期には年間 500 トン以上生産し、昭和 45 年にはたけのこ加工工場もつくられ、水煮の缶詰の生産をしていたが、年々減少し、今では年間に 30 トン足らずとなった。 ・ 減少の要因は、生産者の高齢化、後継者不足、中国産たけのこの輸入による価格の下落がある。水煮たけのこの価格が下落し、たけのこ加工工場は平成 4 年には閉鎖した。 ・ 平成 12 年頃からは新たな問題として、イノシシやサルがたけのこを食べるといふ被害が拡大しており、現在はその被害の防除が課題となってきている。 ・ 竹林は殆どが急傾斜地にあり、掘ったたけのこを高齢の生産者が運び出すことは容易ではない。このため植林を伐採したり、またそのまま放置してしまう生産者も徐々に増えている。 ・ 放置竹林の対策として、昨年芝川町がたけのこ伐採に対して補助金制度をつくり、これを活用し竹林の整備を行った生産者もいる。芝川町が富士宮市と合併してもこの制度を続けて欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大田市場で、昨年暮れに「ふじのくに」のフェアがあり、私も行った。その青果市場の社長に、静岡県のを並べると、ありとあらゆる色とりどりのものがあり、全体としてきれいな富士山のような形に飾れる。そしてそれはほかの県の農産物ではできないと言われた。 ・ 私はそれに答え、「当然である。本県は農産物だけでも 167 種類できる。春夏秋冬すべてで何らかの果物、野菜ができています。これらのものは非常に品質が良くブランド品であり、農業芸術品で農芸品である。」と言った。 ・ 内房のたけのこは、その農芸品の一つとして、売り出さないといけない。一回たけのこ祭りに来て、いろいろ現場を見ながら考えていきたい。 ・ イノシシや、サルという害獣に対してどうするかということが、とても大切である。 ・ イノシシや、サルを追い払う。あるいは適正な数字にする。人間とそういう動物が住み分けるといふことをしなくてはならない。これには本格的に取り組みたいと思う。伊豆半島、東部、天竜も、皆同じような問題に直面しているので、これはできると思う。 ・ 商品というものは価格だけではない。安全で安心して食べられるということには、品質という問題が必ず出てくる。決して負けないという自信を持って取り組んで欲しい。

出席者発言要旨	知事発言要旨
<ul style="list-style-type: none"> ・ 近隣の皆様に内房のたけのこを味わって欲しい、また品質を向上したいということで、生産者、農協、内房農林産物直売所が共同して、平成 15 年から内房たけのこ祭りを開催している。皆様も遊びに来て欲しい。 ・ 内房のたけのこは、県内の産地の中では小さな産地であるが、灰汁の少ないおいしいたけのこを、これからも皆様方に提供できるよう努力していきたい。 	
<p>2 ひらたけの栽培と日頃の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 名古屋から伊豆を経て昭和 49 年に芝川町の夫の生家に移り住み、ひらたけ栽培園を営んできた。起業して 5 年目に夫が不慮の事故で急死し、以来、女手一つで夫の両親と 3 人の子供を抱えて生活してきた。 ・ 自分に経営が任され、安心安全で、しかもおいしい作物を消費者の皆様届けたいという思いが、だんだん強くなり原料にこだわるようになった。乾燥オカラ、松の木やオオバコから抽出した液体、それから竹酢という竹を燃やして出た液体、そのような体にいいものだけを使ってつくっている。 ・ 仕事以外の活動では、作文コンクールに入賞した 5 人の農家の女性たちで会を立ち上げ、連絡ノートを書いたり、2 年に 1 冊の割合で「寿司とペンと女」というタイトルの本を出してきた。 ・ 県の農山漁村ときめき女性という制度の認定者に私どもが選ばれ、最初に世話人として活動した。そこで様々な県内の人たちと知り合うことができた。 ・ 今後も仕事は生涯現役ということで、体の続く限りやっていきたいと思っている。 ・ 県営農村振興総合整備事業「しばとみ地区」の西山の拠点施設であるコミュニティ黒門にコミュニティ女性部 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 岐阜から伊豆半島、そして御主人の生家に来て 5 年目に御主人を亡くされ、御主人の御両親と一緒に住み、お子さんを育てたことは頭が下がる思いである。 ・ ひらたけの栽培、作文コンクールへの応募、その入賞をきっかけとして連絡ノートをつくり、本をつくる。そしてコミュニティの中での女性部で活躍しており、実にたくましく、立派なもの、女性の鏡である。 ・ この会場に来る前にコミュニティ黒門に行ったが、踊りもでき、談話室としても使える施設であった。 ・ これまで培われ蓄積されたものが、若い人などほかの人にも伝わり、お互いの情報交換ができ、これが大きく育っていく。一人の女性のたくましい力が、大きな力の輪になって育っていくと感じた。これからもぜひ頑張りたい。

出席者発言要旨	知事発言要旨
<p>を立ち上げたので、ここでは農業主体に取り組みたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 衰退の一途をたどる農業に、何か行政の方のサポートが欲しい。 	
<p>3 関取米の給食での提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 関取米は江戸の末期に、現在の三重県の菰野町で誕生した。非常に足腰が強く、食べてもおいしい品種で、発見した本人が相撲好きだったためこの名がついた。大阪、江戸で非常に人気のある米として全国へ広まったという書き物も残っており、昭和の初めごろには江戸前寿司専用の米として、消費者に喜ばれてきた。 ・ コシヒカリと比べ面積当たり収穫量は少なく、口へ入れた感触は、コシヒカリほどの粘りがなく、さらっとしたのど越しで、コシヒカリと見劣りしない程の味が感じられる。 ・ 自分が組合長となり、現在5人のメンバーで生産者組合をつくり、1町5反ほどの面積で栽培している。 ・ 去年はグランシップで開催された世界寿司博への参加や、清水ドリームプラザでのPRを行った。また、富士宮市にはフードバレーや食育として力を入れてもらい、非常にありがたく思っている。 ・ これから地元の寿司屋にも目を向け、大いにPRしていく予定であるが、知事にも声を大にして、PRしていただければありがたい。 ・ 販売の拡大が、毎日の心配の種である。これを機会に町の方々にも関取米を知ってもらい、できれば学校の給食にも、一食でも利用してもらえるとありがたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関取米の歴史を聞き大変勉強になった。 ・ 5人の仲間と栽培している関取米を給食に出したいということだが、賛成である。 ・ 江戸時代から折り紙つきの寿司に合う米で、世界寿司博にも出品し、その味と味覚を皆さんに提供した。これをまず地元の小学校の子供たちに、その味をしっかりと植え付ける。いろいろと工夫をしながら、給食に合うような形で、実現できれば良い。

出席者発言要旨	知事発言要旨
<p>4 西山本門寺の本堂の耐震化 火縄銃の使用許可に関する申請書類の簡略化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西山本門寺の本堂の裏には、オオヒイラギがあり、オオヒイラギの下に本能寺の変で敗れた信長公の首が埋められているという伝承が昔からあった。 ・そんな折、歴史作家の安部龍太郎先生によって、「富士山麓に埋められた信長の首」と題し、『歴史街道』に平成12年の1月に紹介された。 ・この機会に商工会では芝川町をもっと知ってもらおうと、芝川町活性化推進委員会を発足し、まちおこしの一環として供養祭や楽市楽座として、惣菜や地元の特産品を販売した。 ・当初は6月の命日に実施していたが、大銀杏の黄葉がすばらしいため、「信長公黄葉祭り」として、11月の第1日曜日と定めて始めることとした。 ・信長公にちなんだイベントとして境内特設会場では火縄銃の展示や、少年団による武道の演技、また本因坊算砂の指示で信長の首が運ばれてきたということから、囲碁の大会、俳句大会が行われている。女性会員は、野立、奉納踊り、出店と大忙しに協力している。 ・火縄銃の展示は、駿河鉄砲衆の協力を得て展示している。当初から演武も行おうと申請していたが、なかなか認められず、ようやく平成20年に行政、関係者の協力によって警察の許可が得られ演舞を行えた。 ・昨年10月には国民文化祭として、火縄銃の演武も全国的に情報発信できたのではないと思う。 ・女性部は出店をして、関取米を使用した太巻き寿司を販売したりして、町内の地場産品のPRに努めており、農商工連携の一端を担っていると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・西山本門寺で行う信長公の黄葉祭りは、成功するであろう。4月にテレビ番組で紹介されることが決まっており、信長公の首塚がある場所は、芝川町の地域における伝承から、日本の伝承になっていく。 ・今残っている本堂は、安政の大地震に耐えて残ったものであるが、今から150年ぐらい前のことである。耐震補強が必要ということは、今聞いたが、当然である。確かに承った。 ・火縄銃をなぜ信長公の黄葉祭りで使用するかということ、信長公と家康公が組んで、武田の騎馬隊を全滅させた長篠の合戦に火縄銃を使ったことに由来する。世界に知られている鉄砲を使った最高の技術の戦闘である。当時の日本は最高の軍事大国であった。 ・江戸時代になると鉄砲を使わなくなり、玉を上に向けて出す花火に変わり、文化となった。祭りは平和のものであるということ警察も理解する必要がある。 ・そこをしっかりと伝え、祭りとしてやっているものとして考え、杓子定規に規制することはない。駿河の鉄砲衆に会ったが、皆立派な訓練をしている方たちで、全国ツアーもやっており、まず安全上は問題ないと思う。私の方でできることがあれば、やってみたい。

出席者発言要旨	知事発言要旨
<ul style="list-style-type: none"> ・富士宮市との合併後も、信長公黄葉まつりは継承されていくので、交流人口拡大のため、また祭りのときだけの一過性でなくて町内が元気になるために女性部一同、各方面において努力して頑張っていきたい。 ・毎年、火縄銃の火薬使用の申請があるが、申請内容を簡略化して欲しい。 ・西山本門寺の本堂は、地震がきたら倒れるのではないかと思うので、耐震補強について考えて欲しい。 ・富士宮市との合併で芝川町がもっと活気づくように、観光コースを考えて欲しい。富士宮市長にもお願いしておきたい。 	
<p>5 自然と人の平和的なつながりの創造</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芝川町の内房に生まれ、短大で林業を学び、その後20代前半はウィンドサーフィンをやり、ワールドツアーを目標に大会を転戦して過ごした。 ・その頃各国のテレビニュースで環境問題が話題となっており、毎日海に行き自然と密接にかかわっていたため、自然と人の平和的なつながりを創造して、より多くの人々の幸せに貢献したいと思い26歳の時に芝川に帰ってきた。 ・仕事は家族でやっている小さな会社で、事業内容は主に林業で、今は県の森の力再生事業を利用し、森の間伐を行っている。それから由比港に船を置き、サクラエビの船をやっている。また、ナチュラルアクションという富士川でラフティングの体験ツアーを行うアウトドア事業の三つである。 ・芝川は、7本の川がある非常に水に恵まれた町である。都会の自然とかかわりの少ない人たちに、もっと自然を心で感じてもらいたいのが、一番の願いである。自然の中で感じた気持ちいいこと、本質的に大事だと思える部分を自分の生活に生かしてもらおうのが自分たちの一番のねらいである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・森は都会の人にとっては、木を植えるだけであるが、こちらでは植えた木を育てて使わないといけない。使い切れていないのが問題である。森は切る、切って使って、そして植える。使って植える必要がある。 ・今我々に求められているのは、南アルプス、伊豆半島の昭和30年代に植えられ十分に成熟した森林を使うことである。その使い道、使い方が試されている。その一つとしてログハウスがある。 ・今箱物をつくらないと言われていたが、仮につくるとすると、本県産の木材しか使わない方針である。鉄筋、木造、コンクリートで、耐震性も強くなる。森を使うということが大切である。 ・森を使うためには、森を知らなければいけない。森を知らせるために、ラフティングというアウトドアのスポーツを子供の教育に生かしながら仕事を。こういう人たちがもっと増えることを私は望んでいる。 ・関取米、タケノコ、ヒラタケを地産地消し、食物を運ぶ距離を少なくする。木材についても、フィンランドやカナダの森を潰して持ってくるのではなく、自分たちの森を育て地域内で使い

出席者発言要旨	知事発言要旨
<ul style="list-style-type: none"> ・川にいて一番幸せを感じたのが、水がきれいなことであつた。川の水がきれいな理由を考えると、上流にきれいな森があることであつた。そう考えるうちに、森を強く意識するようになり、森の状態をよく知ることこそ、一番しなければいけないことと思つた。 ・木の中の水や、おいしい空気をつくっているのは水で、それがなければ人間は生きられない。その当たり前の、いつの時代も絶対に変わらない普遍的に大切なことを、この場所に合った産業として発展させ、嘘なくやっていきたいと思つている。 ・去年、町からの助成金で5.2ha間伐し、420本の丸太をもらった。それを使い木も全部自前で用意しレストランをつくっている。そこでは、自分たちでつくった米、近所の人に依頼しつくってもらふ野菜、サクラエビ、シラスなど、由比の定置網で採れた魚という、その時期一番おいしいものを提供していきたい。 ・カルチャースクールを行い、子供たちに早い段階から、川や山などを経験してもらい、自分が好きなものを見つけるチャンスを与えたい。それをきっかけに旅するチャンスができれば、いろんな人に会い、いろんな価値観を知り、自分の常識が常識でなくなるような、そんな世界を経験することができると思う。 ・その中で全体的な流れをしっかり感じ取り、またここに戻ってきてくれて、先見的な視野を持った目で、子供たちがここでできることをしていきたいと思えるような場所を、つくっていければ良いと考えている。 ・日本の理想郷「ふじのくに」の富士の民として、一生ここで身の丈に合った生き方をしていけたらと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> CO₂の排出量を少なくする。 ・今までは東京にいて、背広を着、ビルの中に入り仕事をするというのが何となくしゃれていた。しかし、結婚して、マンションに住み、ローンを抱えたときに、会社にクビを切られると、自己資産であっても管理費が払えなくなってしまう。サラリーマンで仕事に行き詰まり、お金がなく、生きていけないということで命を絶つ人も増えてきている。 ・土がある、水がある、差し当たって生きていくには困らないということであれば、飢えなくて済むということである。 ・日本におけるホームというのは、家・庭一体である。定期借地とか定期借家にすれば、お互いに安心して貸せるし、お互いに安心して借りることができる。これを活用し、一定期間そこに住む、人生のある段階でそこに住むという、いろいろなライフスタイルの選択肢が可能である。これからのライフスタイルにおけるしゃれた生き方というのは、発言者の方のような生き方である。

出席者発言要旨	知事発言要旨
<p>傍聴者① 都市計画法上の市街化調整区域の指定に緩衝期間を与えて欲しい 東名、国道1号線の迂回路の整備 間伐材の漁礁としての利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市計画法の通常線引きと言われる法制度について、芝川町は富士宮市と合併したことにより、来年4月から市街化調整区域となる。今まで無指定であったことからの変更になるので、町民に対する影響が大きい。 ・金のかからない地域の活性化の観点から、法制度の前に民意を考え、県には寛容な姿勢をみせて欲しい。 ・(指定まで)3年から5年の緩衝期間を与えて欲しい。 ・最近チリ地震により発生した津波を原因とする大渋滞が、この地域にも影響を及ぼした。国道1号線や、東名がストップした余波で、富士から清水区までの交通機関が麻痺した。ここから富士市まで行くのに、通常30分で行くが、2時間かけて、やっとたどり着いたといった話も聞いた。突如の事態が発生した場合には第二東名が使えないのか。日本列島の動脈なので、迂回路の基盤整備をお願いしたい。 ・静岡新聞の地方版に由比港の漁礁に間伐材を使い、魚の成育に活かしていると聞いた。 ・県の産業部でも漁礁に間伐材を使うことを推奨しているが、芝川町には所有する森林の日当たりをよくしたいために、無償で木材を提供したいと考える者がいる。県の応援がいただけるとありがたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画については、富士・富士宮・芝川町の岳南地域全体を見直さなければならない。地元の方の意向が反映される方向で定めていく。法律上、手続上、こうなっているから、すぐ発効しろということはない。 ・新東名の供用は、さすがに私の一存でできない。今日、国道の幾つか狭いところを通ってきたので、これをどう結びつけるか、また西と東をどう結びつけるか、交通の要衝にも当たっているので考えていきたい。 ・我々は物が運べない、人が動けないという状況になる恐れがある地域に住んでおり、もしものことを考える必要があるため、危機管理部というのも新しく設置し対応していく。個別具体的には優先順位があるが、この間のチリ大地震のときに大渋滞が起こったのは、一つの反省になると思うので、そういうことが起こらないよう対策を考えていきたい。 ・木材を海に沈めると、いろいろな藻が生えて、漁場が戻ってくるということを私も読んだ気がする。間伐材をそういう形で利用することは大変ありがたい。これは産業部でやっているのだから、伝えておく。

出席者発言要旨	知事発言要旨
	<p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お金をかけない地域の活性化の話があったが、これは大事なことである。 ・タケノコ祭り、コミュニティ黒門も一つのにぎやか空間の創出であり、桃源郷菜の花祭、信長公の黄葉祭り、こういうお祭りは上手に連携し、順番にしていくと、地域の力を結集できるし、いつも気持ちを一つにさせる。祭りを大事にしていきたい。 ・富士山の日を定め、今は学校の休日化としかになっていないが、私は2月23日を21世紀における日本の祭りに仕上げてみようと思っている。 ・一つのものに向かい一緒に何かするというのはすばらしいことである。地域の人たちが、老若男女一緒にするということが良い。これはお金のかからない活性化の一つの方法だと思っている。 ・おもしろければ人が来る。来るときに不便なら、道路が欲しいとなる。食事・宿泊場所をどうするか。もともと東海道は、人が往来し泊まっていた東海道53次があった。ありとあらゆるところを「ふじのくに」の芸術街道にすることは、来て、泊まって、そしてその空気を吸い、おいしい食事をいただき、人の人情に触れることになる。 ・厚生労働省のいろいろな規制があり、簡単に旅館を開けないが、開く方法があるはずである。空き家を利用する。少し知恵を絞って、人が来たときに簡単に泊まれるようにする。これがやがて定住を促進していくことにもなる。 ・祭りは一つの地域の人と一緒に、そして外の人たちも楽しむことができるものである。 ・今日いろいろ伺ったことを書きとめたので、これを参考に芝川町の発展、また富士宮の新しい発展に結びつくように、町長、市長、県会議員の先生方、地域の指導者の話を聞き、お役に立てるようにしていきたい。